



中部電力

2020年度第2四半期 決算説明会資料

2020年10月

I	2020年度第2四半期 決算概要	<スライド番号>	III	参考データ：経営関連	<スライド番号>
	決算概要	1		連結経常損益・純損益の推移	18
	セグメント別決算概要	4		資金調達・有利子負債残高の推移	19
	発電電力量	8		連結キャッシュ・フローの推移	20
	(参考) 期ずれ影響のイメージ(実績)	9		連結財務体質の推移・格付	21
	配当状況	10		連結ROA・ROEの推移	22
	2020年度 業績見通しの概要	11		ミライズグループ販売状況について	23
	(参考) 期ずれ影響のイメージ(年度見通し)	13		ミライズ販売電力量の月別推移	24
				発電・調達電力量の構成	25
II	参考データ：決算・財務関連	<スライド番号>		再生可能エネルギー事業の概要	26
	連結収支比較表	14		海外事業の概要	27
	連結財政状態の概要	15			
	連結キャッシュ・フロー	16			
	再生可能エネルギー-固定価格 買取制度における収支影響	17			

I 2020年度第2四半期 決算概要

(注) 「年度」表記は4月から翌年3月までの期間を、「2Q」表記は4月から9月までの期間を指します。
表示単位未満の数値について、金額は切り捨て、販売電力量や発電電力量などの諸元は四捨五入で記載しております。

決算概要①

〈決算のポイント〉(連結)

- 売上高：1兆4,519億円
新型コロナウイルス感染症の影響などによる販売電力量の減少(△852億円)や燃料費調整額の減少(△502億円)などから、前年同期に比べ1,204億円の減収
- 経常利益：1,464億円
販売電力量の減少など新型コロナウイルス感染症の影響(△260億円程度)や、前年においてJERAが海外発電案件等の売却益を計上したことの反動などはあったものの、期ずれ差益の拡大(+240億円[320億円→560億円])や電源調達コストの低減に努めたことなどから、前年同期に比べ28億円の増益
(参考) 期ずれを除いた経常利益：900億円程度

- ・ 売上高は、2016/2Q以来、4年ぶりの減収
- ・ 経常利益は、2018/2Q以降、3年連続の増益
- ・ 2015/2Q以来、5年ぶりの減収増益

(億円,%)

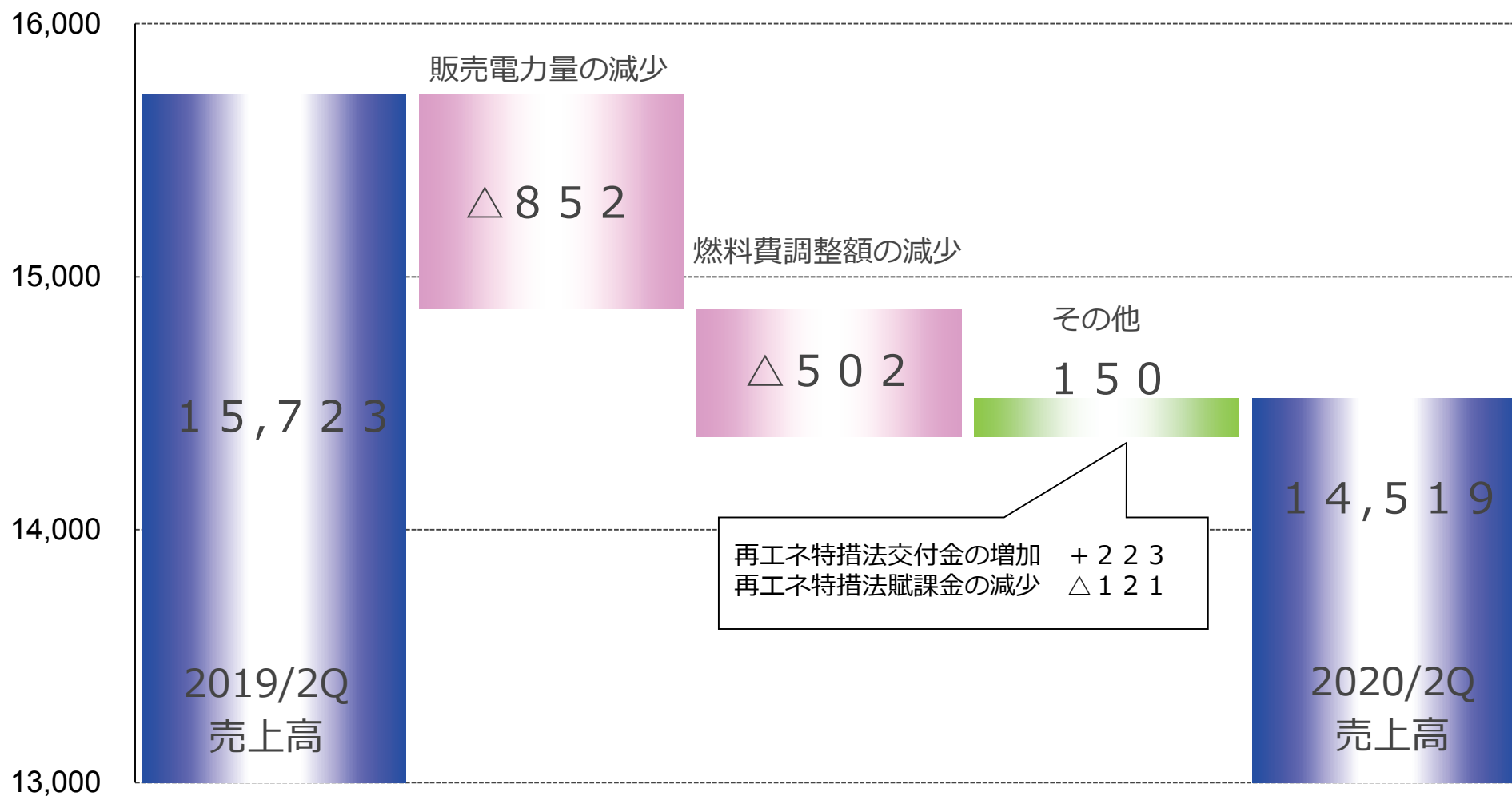
	2020/2Q (A)	2019/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	14,519	15,723	△1,204	△7.7
営業利益	1,044	863	181	21.0
経常利益	1,464	1,435	28	2.0
特別利益	—	190	△190	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,146	1,361	△215	△15.8

(注) 連結対象会社数 2020/2Q 連結子会社 36社(△1社) 持分法適用会社 48社(+14社) [() 内は前年同期差]

決算概要②

〈連結売上高の変動要因〉 (1,204億円の減収)

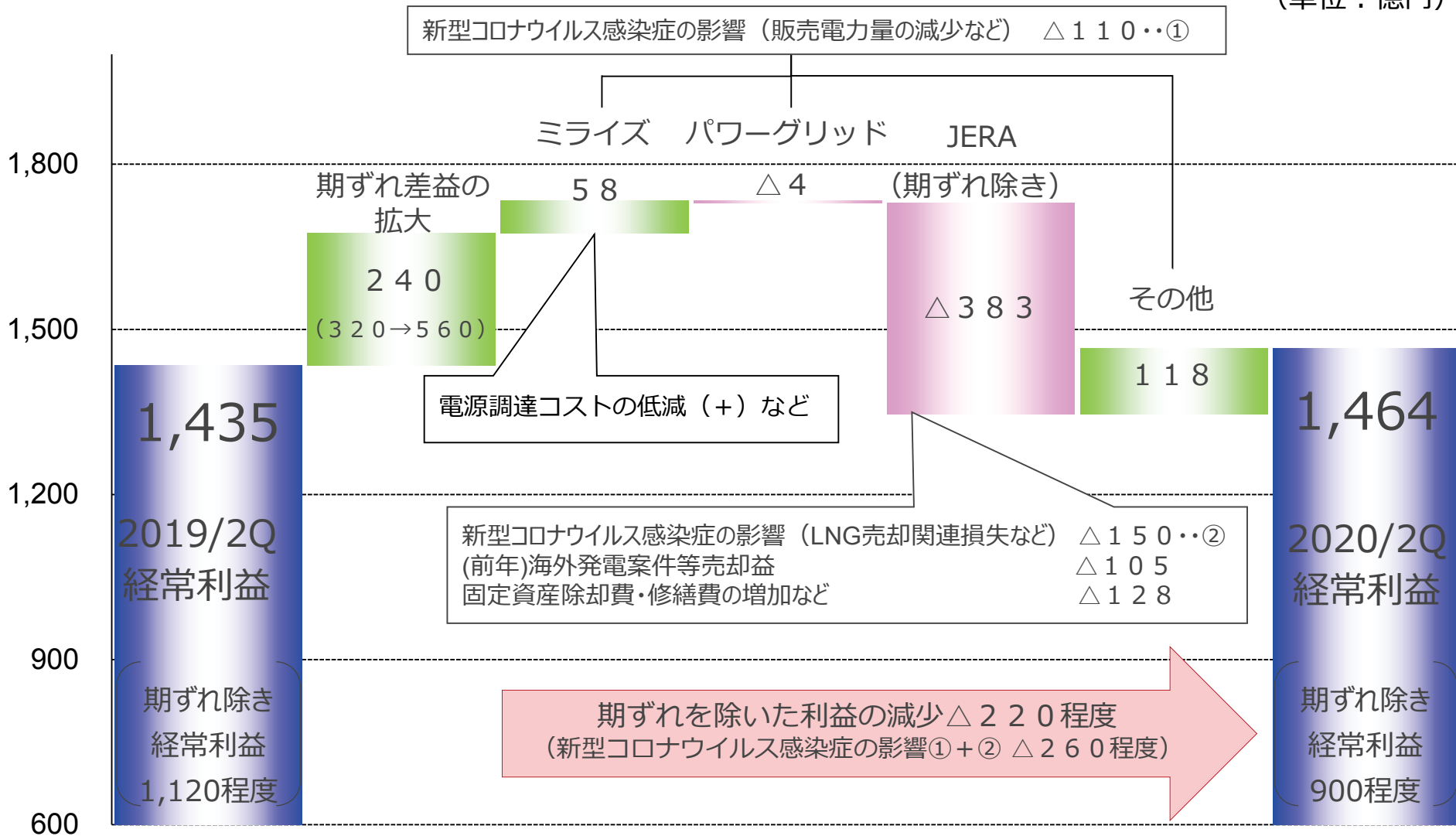
(単位：億円)



決算概要③

〈連結経常利益の変動要因〉 (28億円の増益)

(単位：億円)



セグメント別決算概要①

【売上高】

(億円,%)

	2020/2Q (A)	2019/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	12,291	13,847	△1,555	△11.2
パワーグリッド	3,661	3,715	△54	△1.5
その他(※1)	3,502	3,604	△101	△2.8
調整額	△4,936	△5,443	507	△9.3
合計	14,519	15,723	△1,204	△7.7

【経常損益】

(億円,%)

	2020/2Q (A)	2019/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	417	358	58	16.4
パワーグリッド	231	235	△4	△1.9
J E R A (※2)	480	623	△143	△23.0
その他(※1)	575	305	270	88.8
調整額	△240	△87	△152	174.4
合計	1,464	1,435	28	2.0

(注) 各セグメントは内部取引消去前で記載しております。また、グループ会社のセグメント区分変更に伴い、2019年度第2四半期実績の組替えを実施しております。

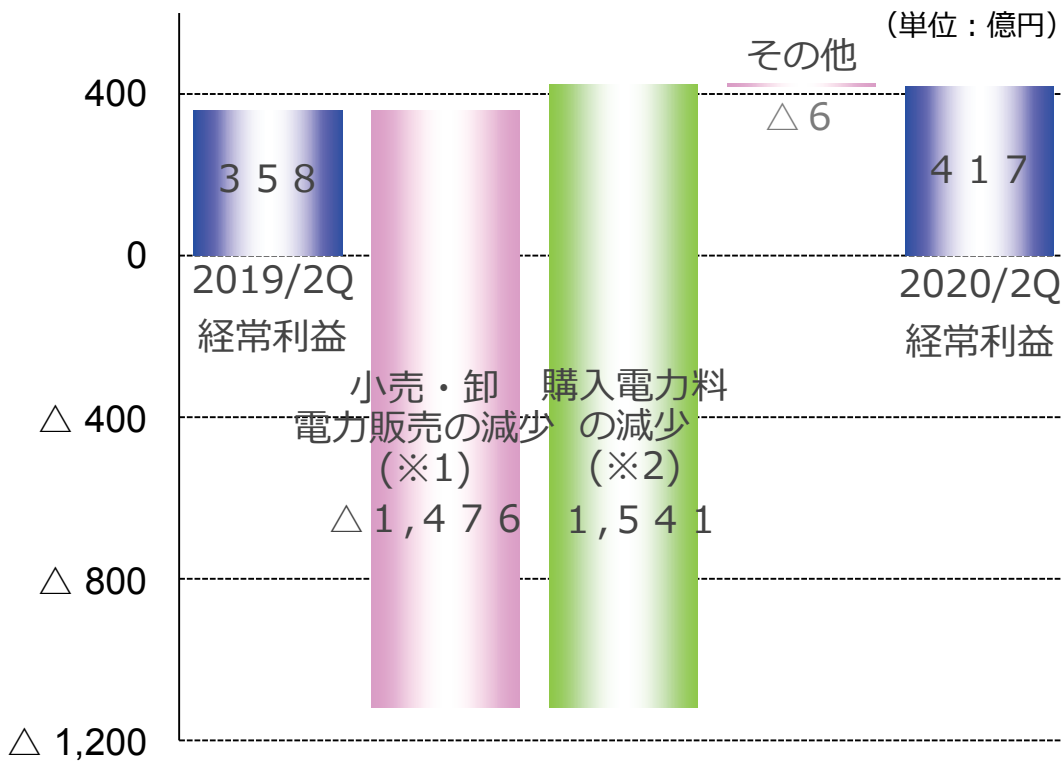
※1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、当社の再生可能エネルギーカンパニー、原子力部門、管理間接部門、その他の関係会社等を含んでおります。

※2 J E R A は、持分法適用会社のため、売上高は計上されません。

セグメント別決算概要②：ミライズ

〈経常利益の変動要因〉

- 新型コロナウイルス感染症の影響などによる販売電力量の減少や販売面での競争影響による収支悪化はあったものの、電源調達コストの低減に努めたことなどから、前年同期に比べ 58億円の増益



- ※1 電灯電力料,他社販売電力料,再エネ特措法交付金
- ※2 他社購入電力料,接続供給託送料,再エネ特措法納付金

(販売電力量)

	'20/2Q (A)	'19/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
低圧	161	165	△4	△2.5
高圧・特別高圧	383	426	△43	△10.1
合計	544	591	△47	△8.0

[参考]

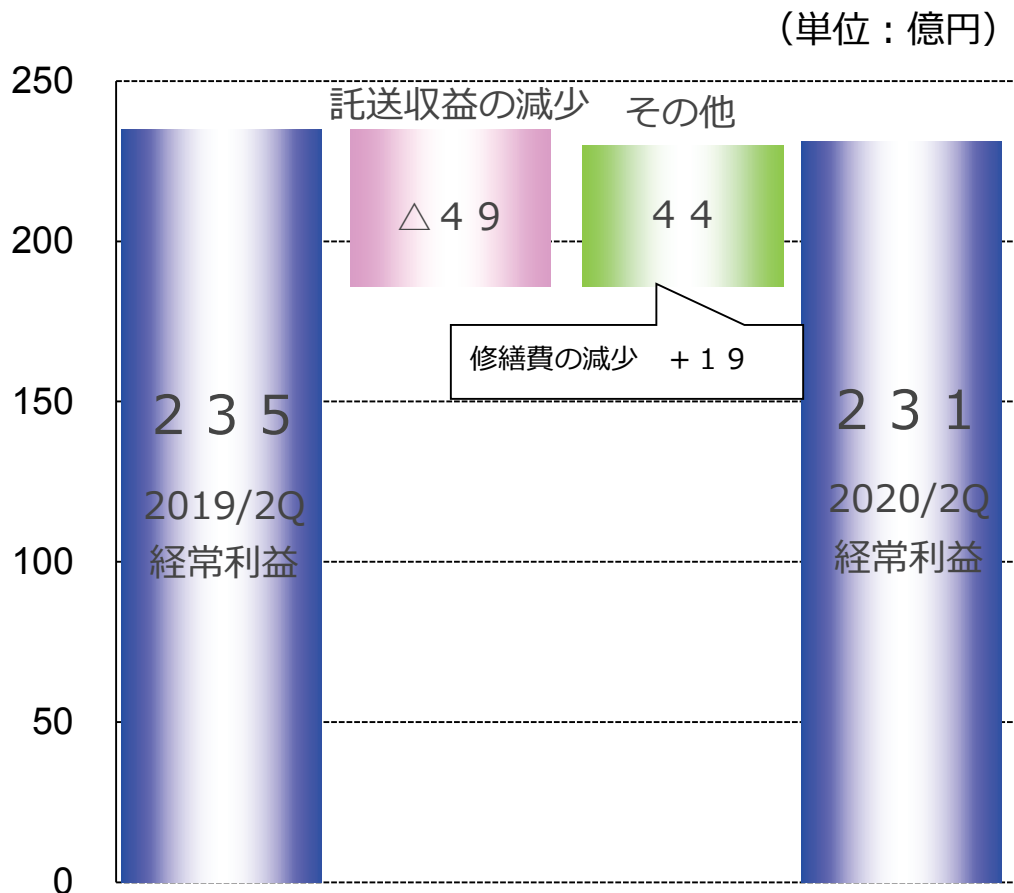
グループ合計の販売電力量	571	619	△47	△7.6
他社販売電力量	39	55	△16	△29.0

- ※ 2019年度第2四半期の販売電力量は販売カンパニーの実績を記載しております。
- ※ グループ合計の販売電力量は中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の実績を記載しております。

セグメント別決算概要③：パワーグリッド

〈経常利益の変動要因〉

- 修繕費の減少はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響によるエリア需要の減少などから、前年同期に比べ4億円の減益



(エリア需要)

	'20/2Q (A)	'19/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
エリア需要	601	638	△37	△5.8

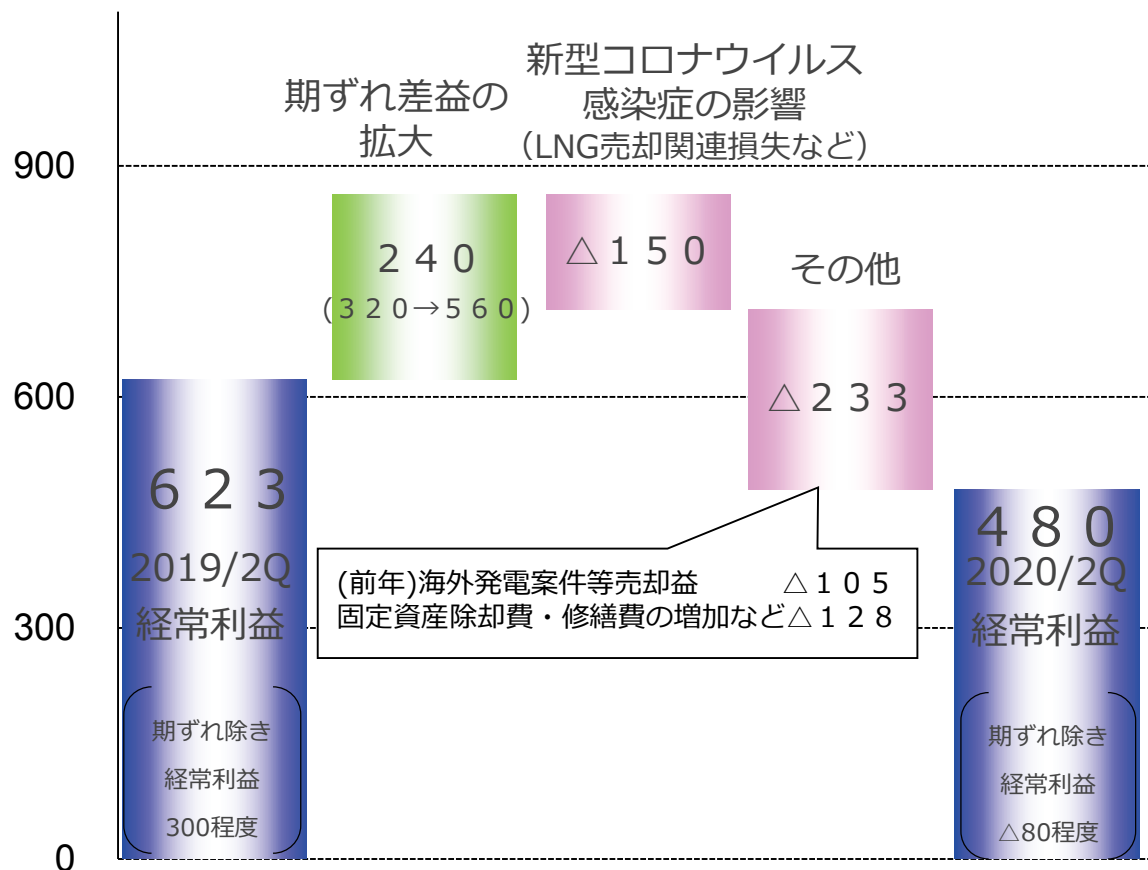
(億kWh,%)

セグメント別決算概要④：J E R A

〈経常利益の変動要因〉

- 期ずれ差益の拡大はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響や前年において海外発電案件等の売却益を計上したことの反動などから、前年同期に比べ 143億円の減益

(単位：億円)



(CIF価格・為替レート)

	'20/2Q (A)	'19/2Q (B)	増減
			(A-B)
原油CIF価格 (\$/b)	36.5	68.9	△32.4
為替レート(円/\$)	106.9	108.6	△1.7

※2020/2Qの原油CIF価格は速報値

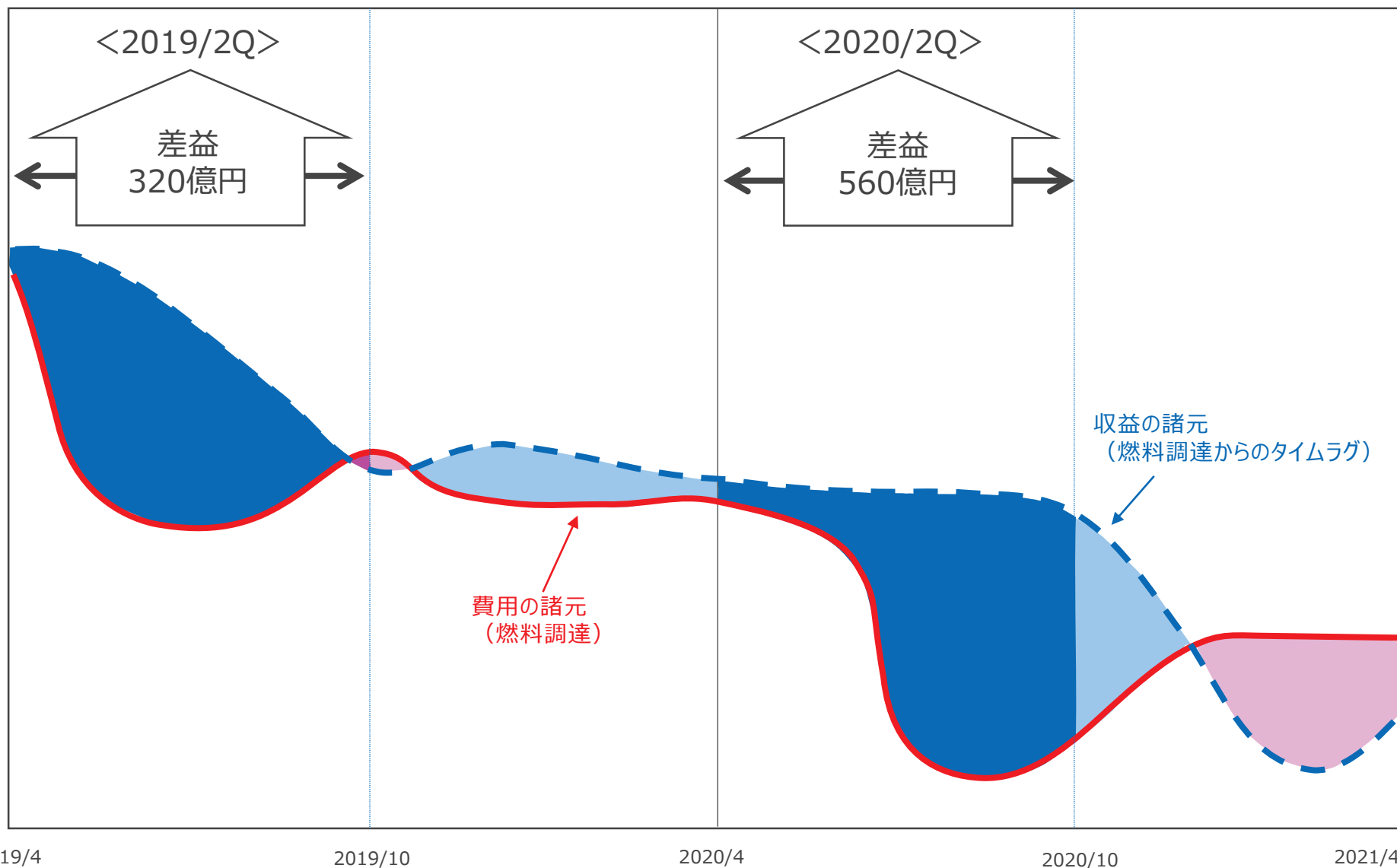
〈発電電力量〉（中部電力）

- **水力** 出水率が前年同期を上回り、2億kWh増加
- **新エネルギー** 四日市バイオマス発電所が運開したことなどから、2億kWh増加

(億kWh,%)

	2020/2Q (A)	2019/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
水力 (出水率)	52 (106.2)	50 (96.9)	2 (9.3)	5.0
原子力 (設備利用率)	— (—)	△1 (—)	1 (—)	—
新エネルギー	2	0	2	544.1
合計	54	49	5	11.1

(参考) 期ずれ影響のイメージ (実績)



〈株主還元に関する考え方〉

- 電力の安全・安定的な供給のための設備投資を継続的に進めつつ、成長分野への投資を推進することで、持続的な成長を目指し、企業価値の向上に努めてまいります。
- 株主還元については、重要な使命と認識し、安定的な配当の継続を基本としながら、利益の成長を踏まえた還元を努め、連結配当性向 30%以上を目指してまいります。

〈配当状況〉

- 中間配当につきましては、本日開催の取締役会において 1株につき 25円 と決定いたしました。

	2020年度	2019年度
1株当たり 中間配当金	25円	25円
1株当たり 期末配当金	(25円)	25円
合計	(50円)	50円
期ずれ補正後の 連結配当性向	(47%程度)	30.4%

※1 () 内は予想値

※2 前回予想(2020年7月31日公表)から変更しておりません

2020年度 業績見通しの概要①

〈業績見通し〉(連結) 2020年7月31日公表の業績予想値を修正

電力需要(中部エリア)の減少は、5月で底を打ち、6月以降、回復基調で推移しております。コロナによる社会構造の変化など、今後の影響に不透明な部分ではありますが、中部エリアの電力需要は、第2四半期の実績や、お客さまからお聞きした情報などを踏まえ、下期においても回復基調が継続することを見込み、前期に比べ△2%程度の減少と想定しております。(前回公表△6%程度)

- 連結売上高 : 2兆8,000億円となる見込み
- 連結経常利益 : 1,450億円となる見込み

期ずれ差益の縮小はあるものの、産業用を中心としたエリア電力需要の増加などによるコロナ影響の縮小や、夏季の気温が高めに推移したことによる販売電力量の増加、効率化努力などにより、前回公表から増益。なお、期ずれを除いた利益は、1,100億円程度となる見込み。

- ・ 売上高は、2016年度以来、4年ぶりの減収
- ・ 経常利益は、2018年度以来、2年ぶりの減益
- ・ 2016年度以来、4年ぶりの減収減益

(億円,%)

	今回公表 (A)	7/31公表 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	28,000	27,500	500程度	1.8
経常利益	1,450	1,250	200程度	16.0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,150	1,050	100程度	9.5

[参考] 前期比較

(億円,%)

	今回公表 (A)	2019年度実績 (C)	増減	
			(A-C)	(A-C)/C
売上高	28,000	30,659	△2,650程度	△8.7
経常利益	1,450	1,918	△470程度	△24.4
親会社株主に帰属する当期純利益	1,150	1,634	△480程度	△29.7

2020年度 業績見通しの概要②

【主要諸元】

(販売電力量)

(億kWh,%)

	今回公表 (A)	7/31公表 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
販売電力量	1,117	1,063	54	5.1
グループ合計の販売電力量	1,172	1,118	54	4.8

[参考] 前期比較

(億kWh,%)

	今回公表 (A)	2019年度実績 (C)	増減	
			(A-C)	(A-C)/C
販売電力量	1,117	1,172	△55	△4.7
グループ合計の販売電力量	1,172	1,225	△53	△4.4

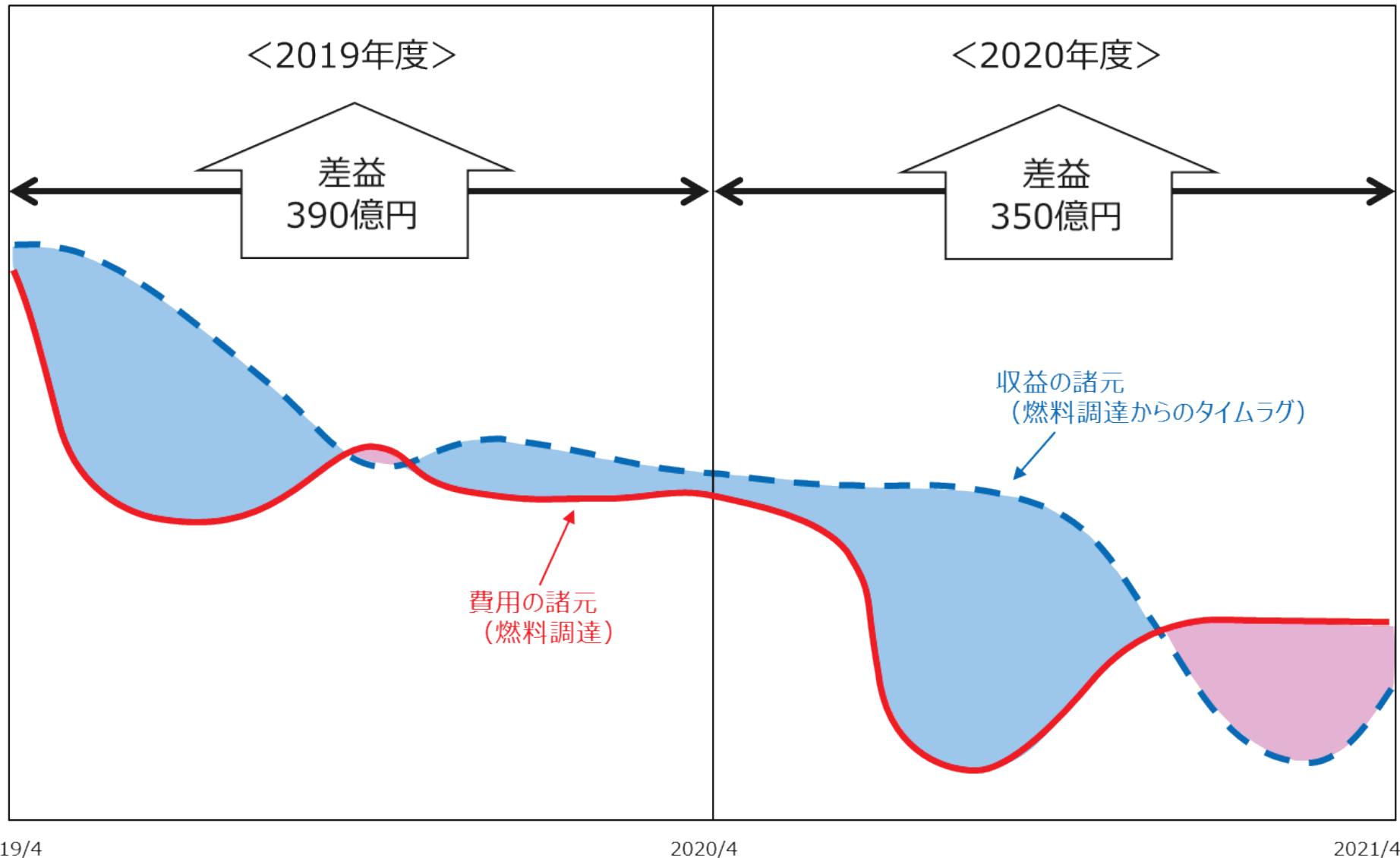
※ 2020年度は中部電力ミライズ、2019年度は販売カンパニーの値を記載しております。

※ グループ合計の販売電力量は、中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の値を記載しております。

(その他)

		今回公表	7/31公表	<参考> 2019年度実績
原油CIF価格	(\$/b)	42程度	38程度	68
為替レート	(円/\$)	108程度	109程度	109
原子力利用率	(%)	—	—	—

(参考) 期ずれ影響のイメージ (年度見通し)



Ⅱ 参考データ：決算・財務関連

連結収支比較表

(億円, %)

	2020/2Q (A)	2019/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
営業収益 (売上高)	14,519	15,723	△1,204	△7.7
持分法による投資利益	492	648	△155	△24.0
その他収益	37	62	△25	△39.9
営業外収益	530	711	△180	△25.4
経常収益	15,049	16,434	△1,384	△8.4
営業費用	13,474	14,860	△1,385	△9.3
営業外費用	110	138	△27	△19.9
経常費用	13,585	14,998	△1,413	△9.4
(営業利益)	(1,044)	(863)	(181)	(21.0)
経常利益	1,464	1,435	28	2.0
渴水準備金	—	△0	0	—
特別利益	—	190	△190	—
法人税等	298	244	53	21.9
非支配株主に帰属する四半期純利益	19	21	△1	△5.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,146	1,361	△215	△15.8

連結財政状態の概要

(億円)

	2020/9末 (A)	2020/3末 (B)	増減 (A-B)
資産	55,533	55,008	525
負債	35,087	35,387	△299
純資産	20,445	19,620	825

<主な増減理由>

売掛金の増 540

自己資本比率(%)	35.6	34.4	1.2
有利子負債残高	24,057	24,250	△193

コマーシャル・ペーパー
の減 △480

連結キャッシュ・フロー

(億円)

	2020/2Q (A)	2019/2Q (B)	増減 (A-B)
営業活動による キャッシュ・フロー ①	1,119	591	527
投資活動による キャッシュ・フロー ②	△921	△4,359	3,438
財務活動による キャッシュ・フロー ③	△447	△626	178
現金および現金同等物の 増減額(※) ①+②+③	△248	△4,444	4,195

<主な理由>

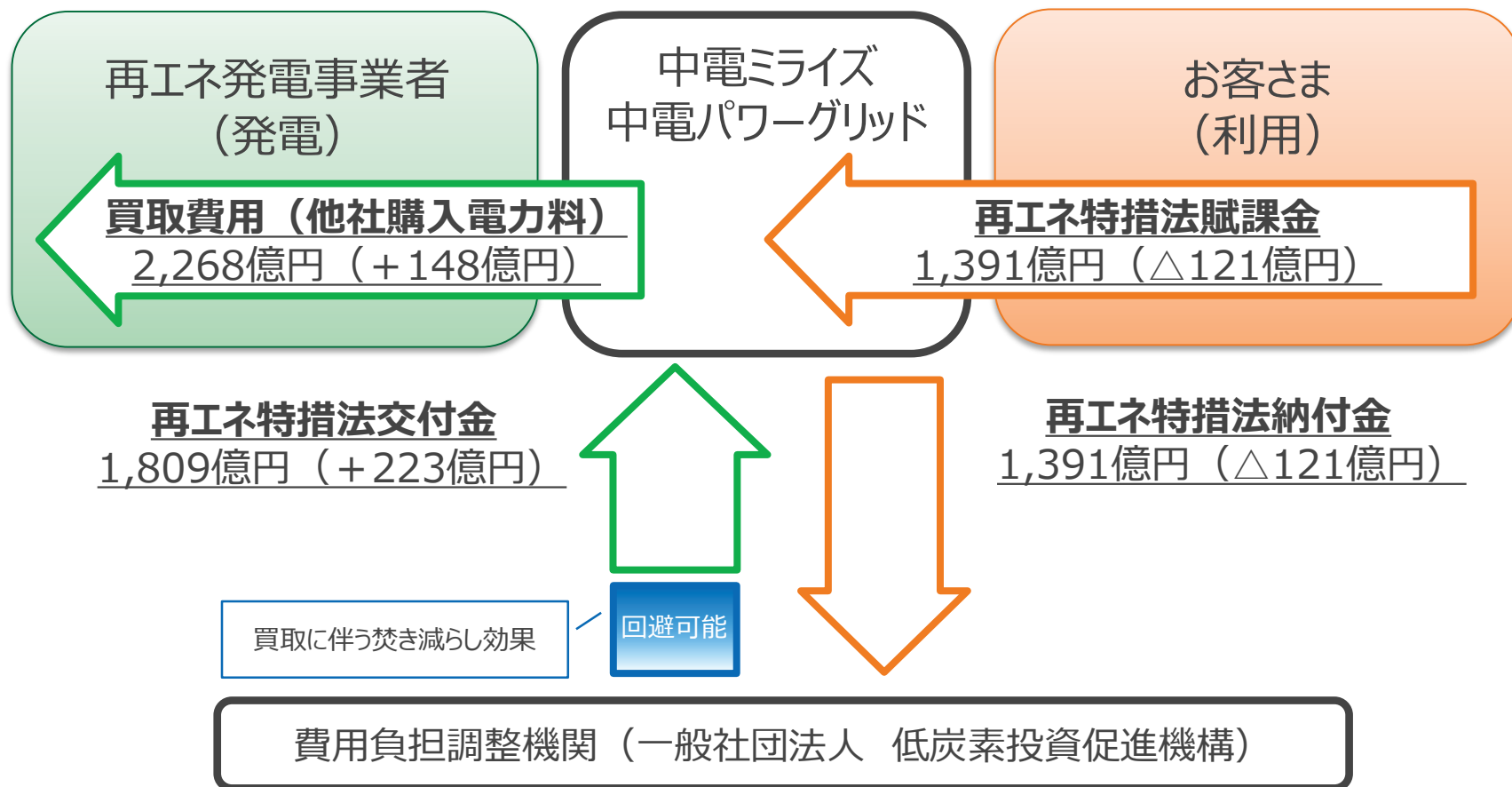
既存火力発電事業の
JERA統合に伴う調整
金の支払
△3,350

※連結範囲の変更に伴う現預金等の増減額を含む

フリー・キャッシュ・フロー ①+②	198	△3,768	3,966
----------------------	-----	--------	-------

再生可能エネルギー - 固定価格買取制度における収支影響

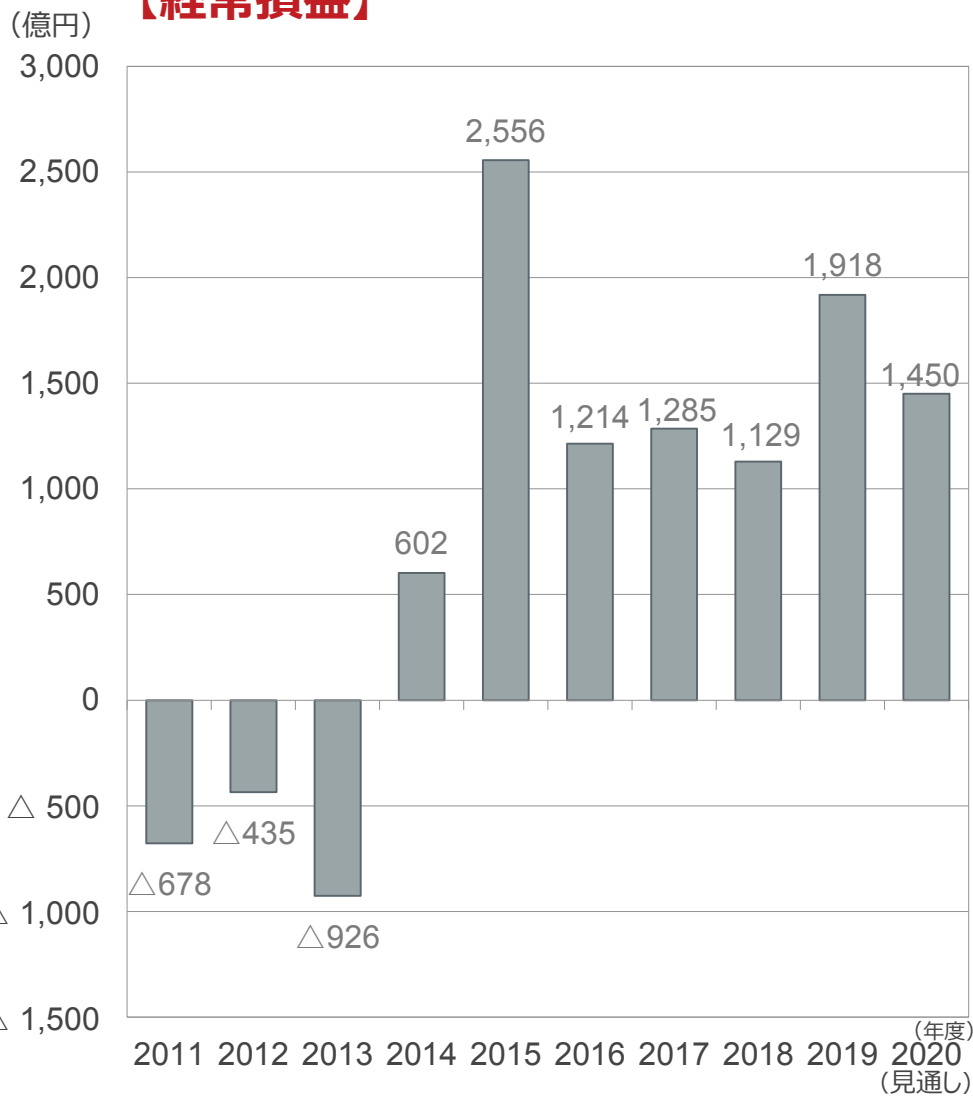
<2020/2Q実績> ※ () 内は前年同期差



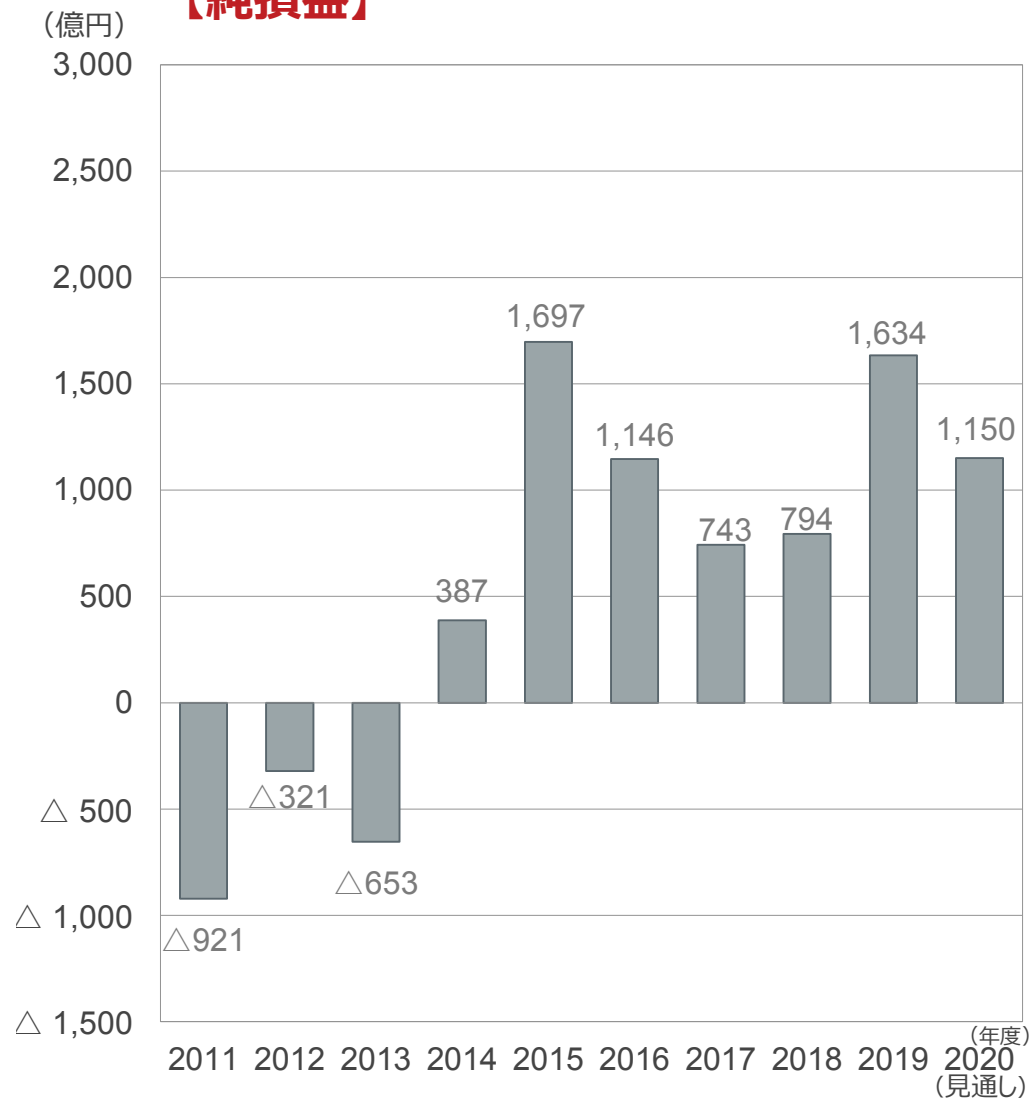
Ⅲ 参考データ：経営関連

連結経常損益・純損益の推移

【経常損益】

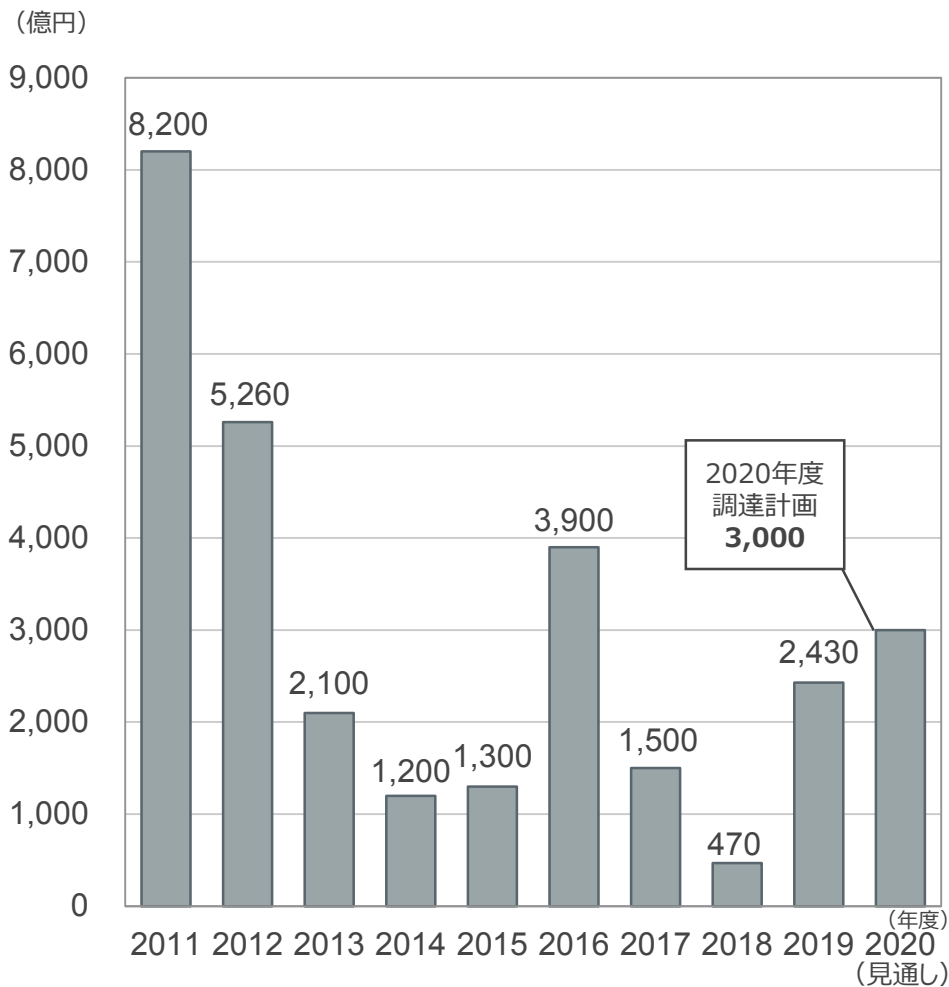


【純損益】

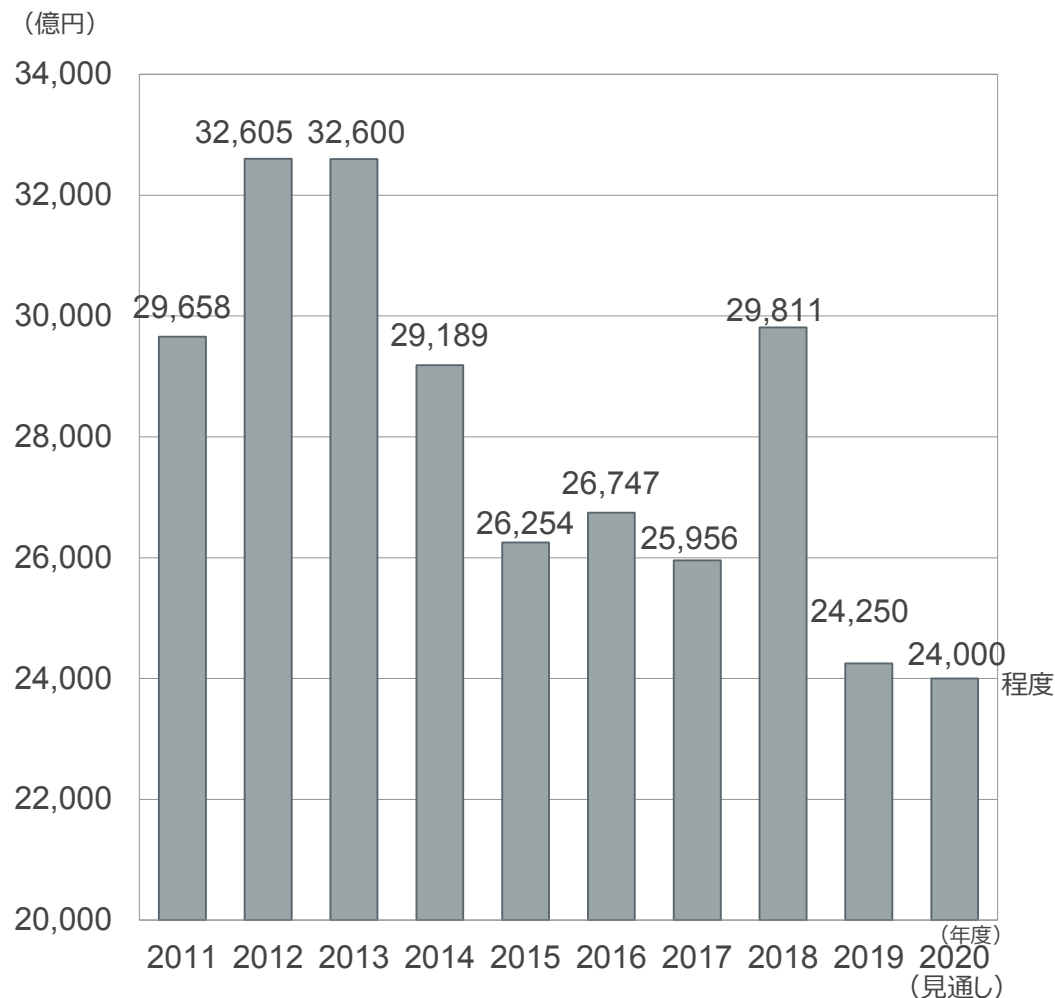


資金調達・有利子負債残高の推移

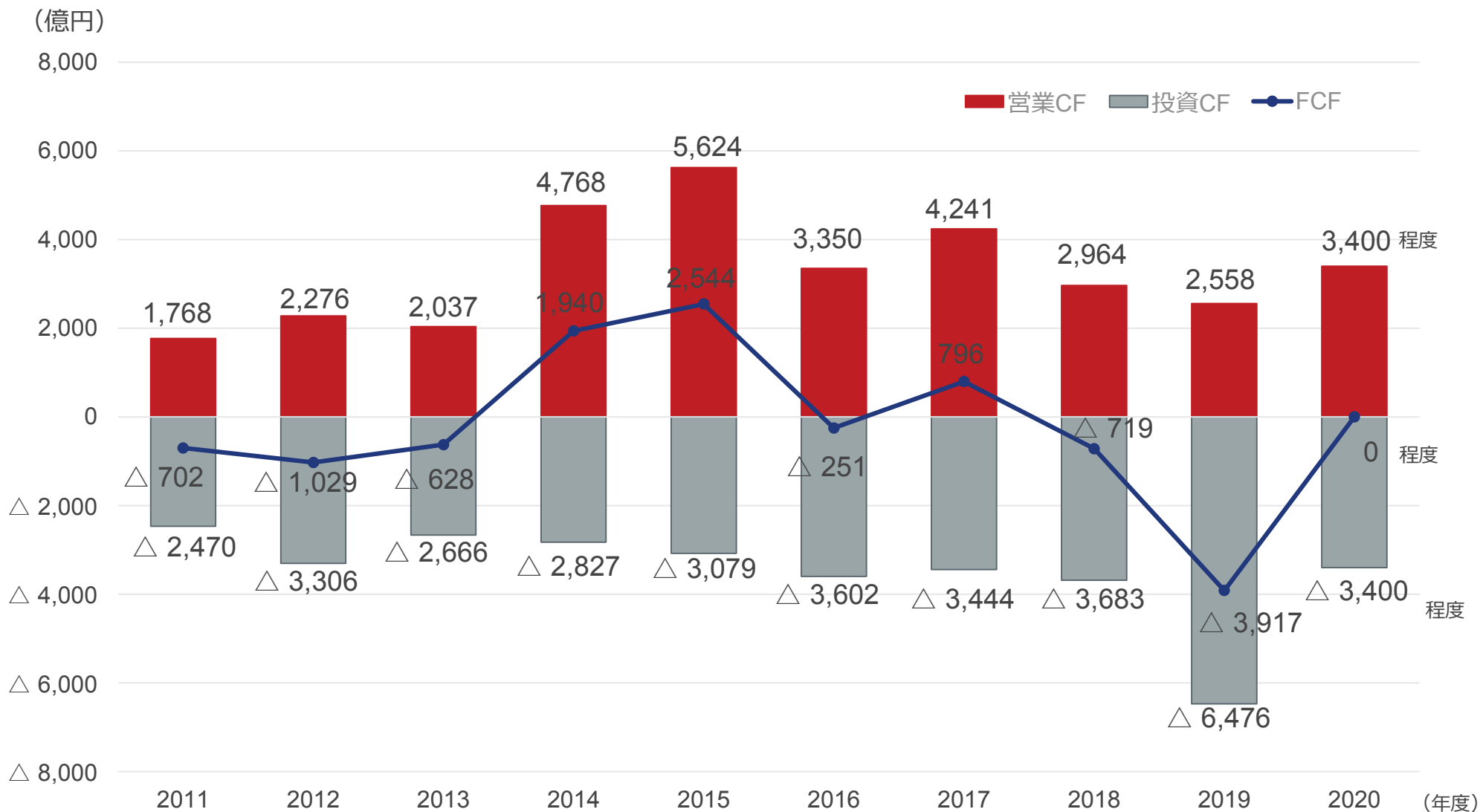
【資金調達（個別）】



【有利子負債残高（連結）】

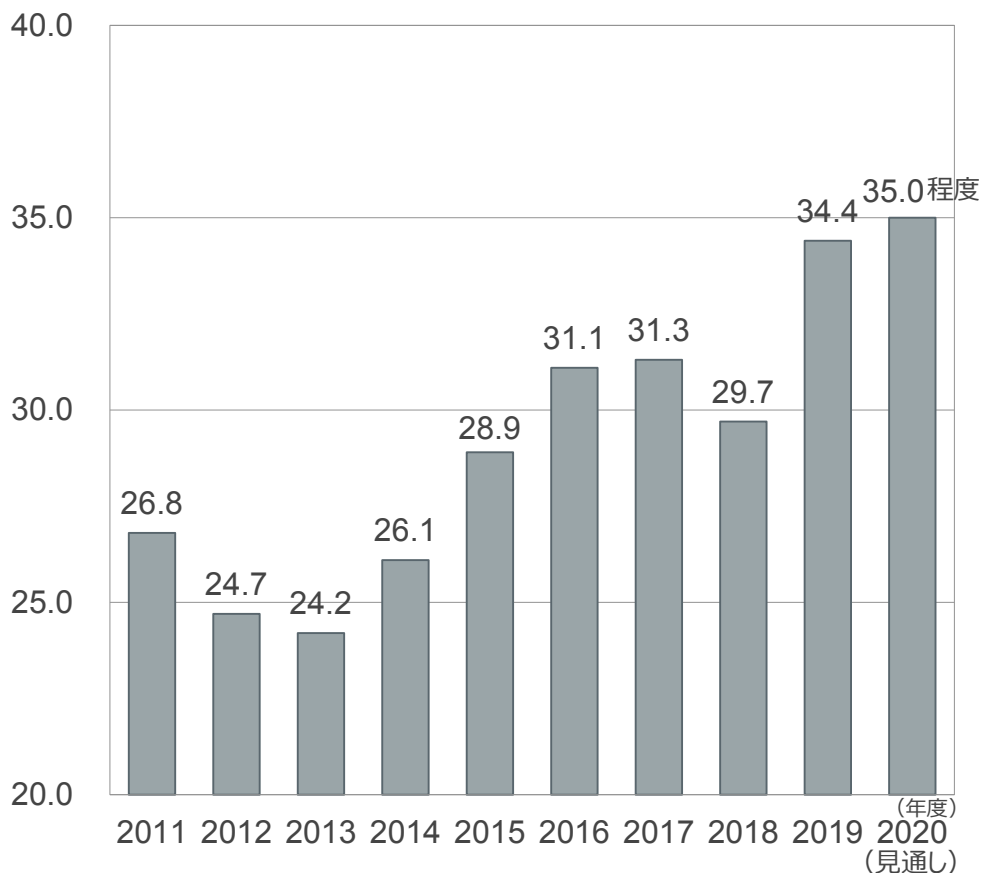


キャッシュ・フローの推移（連結）

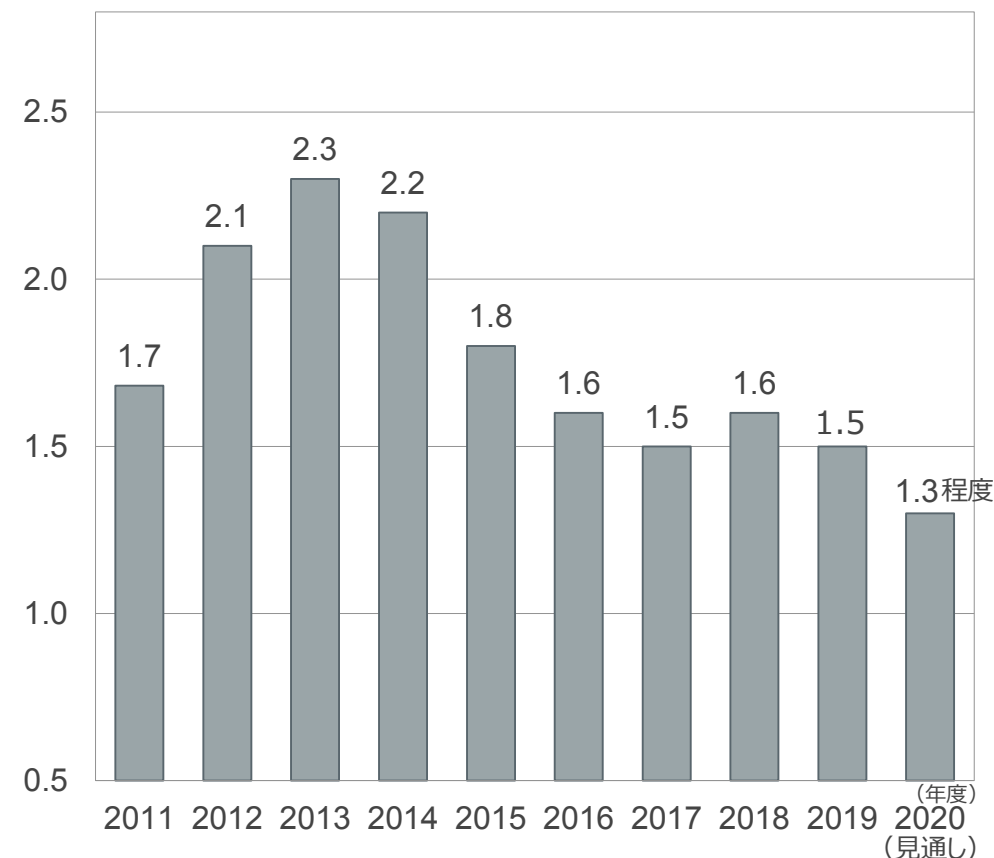


連結財務体質の推移・格付

(%) **【自己資本比率】**



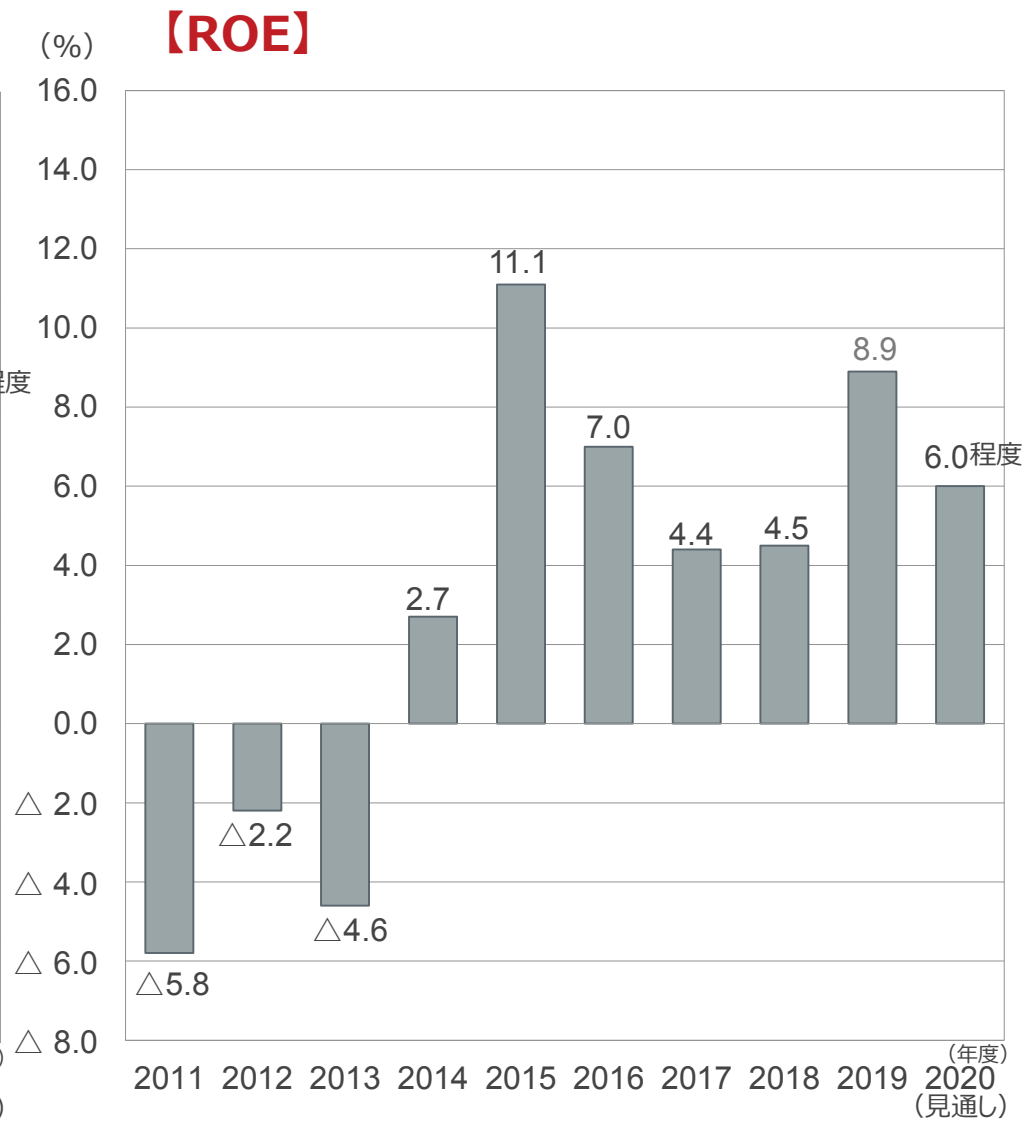
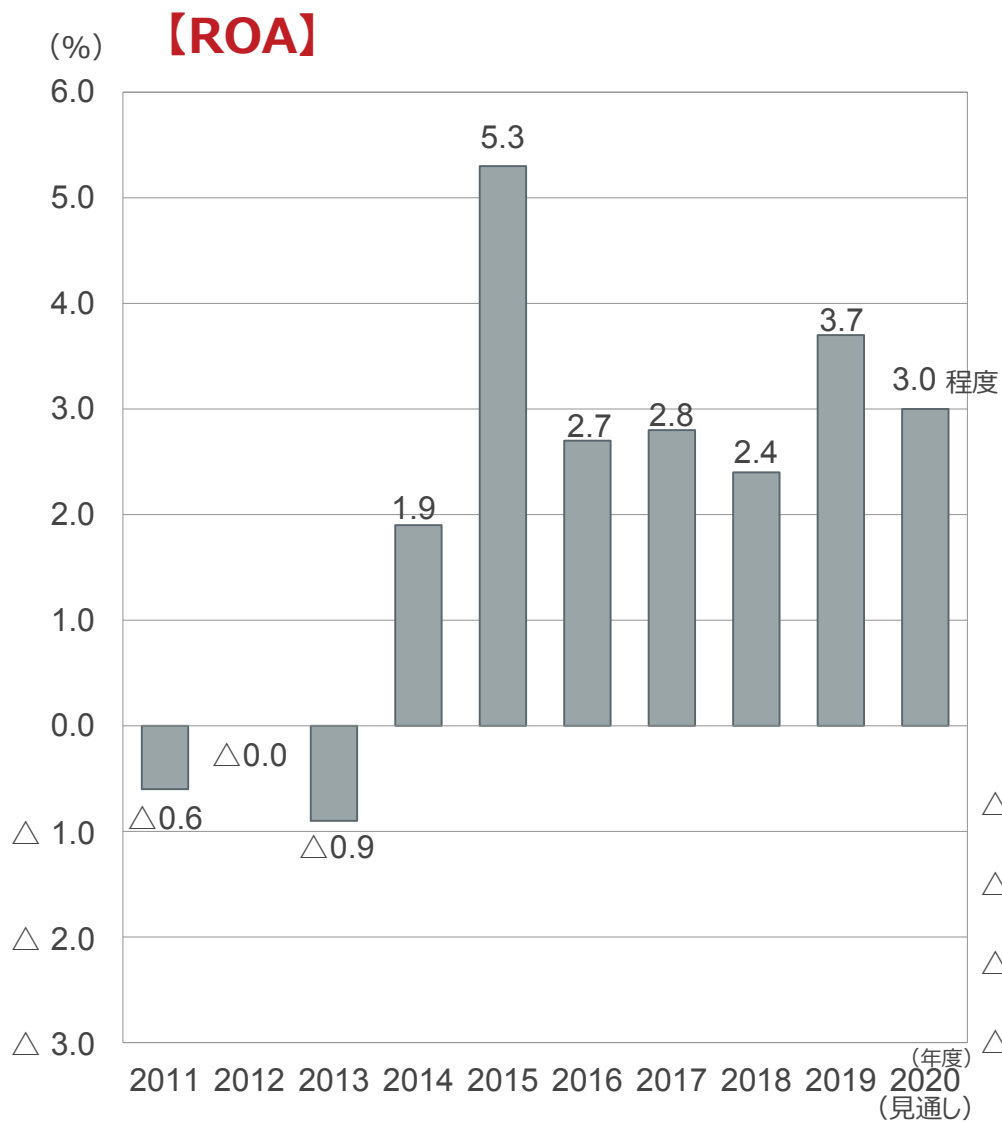
(倍) **【D/Eレシオ】**



【格付取得状況(長期格付)】

Moody's	R&I	JCR
A3	A+	AA

連結ROA・ROEの推移



ミライズグループ販売状況について

		2020/2Q	目標
域内	電気新料金メニュー加入実績	約225万件 (9月時点)	—
	各種サービスと電気またはガスとのセット販売件数	約4.5万件 (10月5日時点)	2020年度末までに10万件獲得
域外	エリア外での販売電力量	55億kWh	2020年代後半、首都圏の販売電力量 年間約300億kWhに拡大
	CDIナジーダイレクトの供給件数（電力・ガス計）	約28万件 (10月21日時点)	将来的に約300万件相当のお客さまへの サービス提供
ガス	ガス・LNG販売量	47.3万t	2020年代後半で年間300万tに拡大
	ガス料金メニュー申込み件数	約38.1万件 (10月7日時点)	—

ミライズ販売電力量の月別推移

(億kWh)

	2020年度						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2Q
低圧	29	26	20	24	31	30	161
高圧・特別高圧	60	54	61	67	68	73	383
合計	90	80	81	91	99	103	544

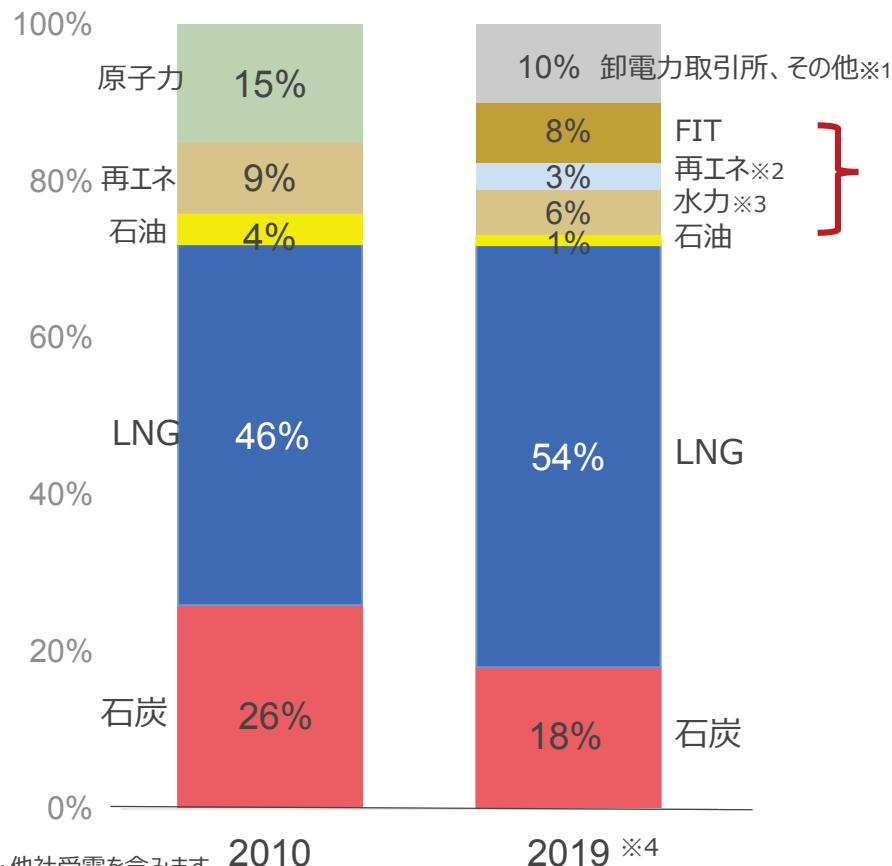
(億kWh)

	2019年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
低圧	30	28	21	23	34	30	24	25	28	39	34	31	346
高圧・特別高圧	65	65	70	75	75	76	71	65	65	65	67	67	826
合計	95	93	91	98	108	106	95	90	92	104	101	98	1,172

※ 端数処理の関係で合計が合わない場合があります。

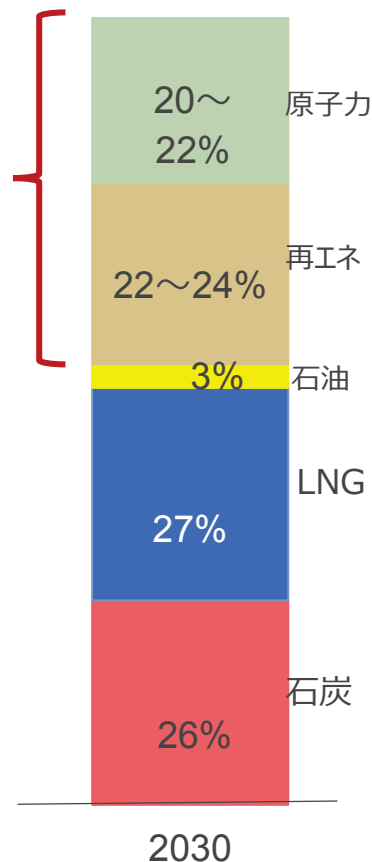
発電・調達電力量の構成

【発電・調達電力量の構成】



【国の長期エネルギー需給見通しにおける電源構成】

非化石電源を拡大



(注1) 融通・他社受電を含みます

(注2) 当社は再生可能エネルギー100%とするメニューを一部のお客さまに対して販売しており、それ以外の電源を特定していないメニューの構成比を示しています

※1 日本卸電力取引所(JEPX)からの調達、他社から調達している電気で発電所が特定できないもの

※2 水力3万kW以上、FIT電気を除く

※3 3万kW以上

※4 2019年度の発電・調達電力量は送電端の電力量を記載

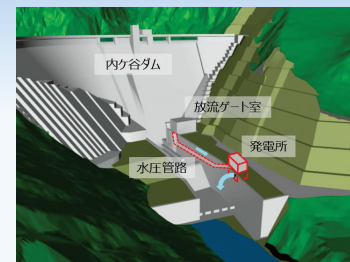
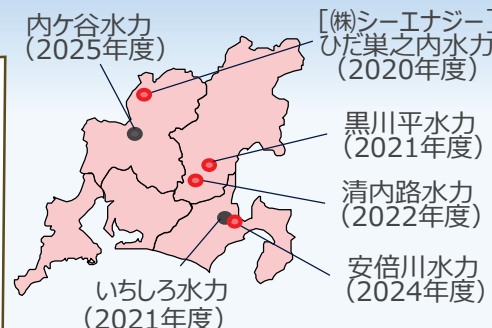
出所：「長期エネルギー需給見通し小委員会」資料

再生可能エネルギー事業の概要

		当社	(参考)グループ会社
水力	稼働中	197地点：545.9万kW 春米（鳥取県）：0.372万kW	秋神：0.029万kW さこれ：0.038万kW 甘酒：0.053万kW
	予定	黒川平：0.017万kW（'21） いちしろ：0.016万kW（'21） 清内路：0.56万kW（'22） 安倍川：0.75万kW（'24） 内ヶ谷：0.072万kW（'25） 2地点（鳥取県）：0.41万kW（'23） 1地点（鳥取県）：0.203万kW（'24）	ひだ巢之内：0.082万kW（'20）
風力	稼働中	御前崎：2.2万kW	15.3万kW
	予定	あつみ：0.74万kW（'21） 秋田港・能代港：0.55万kW（'22）	-
太陽光	稼働中	カソーラーいいだ：0.1万kW カソーラーしみず：0.8万kW カソーラーかわごえ：0.75万kW 宮古ざかいソーラーパーク：0.9万kW	32.5万kW
	予定	-	-
バイオマス	稼働中	四日市：4.9万kW	多気バイオパーク：0.675万kW CEPO半田：4.5万kW
	予定	米子：1.635万kW（'21） ごうど：0.375万kW（'22） 神栖：2.25万kW（'23） 愛知蒲郡：2.425万kW（'23） 御前崎港：2.548万kW（'23）	-
合計※	稼働中	約555.9万kW	約609.0万kW
	予定	約12.6万kW	約46.3万kW

水力発電の開発地点

● 一般水力 ● 維持流量発電 () 営業運転開始予定年度



内ヶ谷水力発電所
発電所設置イメージ図

バイオマス発電

米子バイオマス発電所建設状況

【建設エリア写真】



【設備概要】

所在地：鳥取県米子市
発電出力：5.45万kW
発電電力量：約3.9億kWh(年間)
燃料種別：木質ペレット
パーム椰子殻
運転開始予定：2022年3月
出資会社：中部電力、東急不動産
三菱UFリース
シンエネルギー開発
三光

**2030年頃に200万kW以上
の再生可能エネルギーを開発**

(2020年9月末時点)

海外事業の概要①

【ドイツ海底送電線事業】

案件概要				
事業内容	北海洋上にある風力発電所を結ぶ、下記4つの送電資産の運営および保守			
	BorWin1	BorWin2	DolWin2	HelWin2
送電容量	400MW	800MW	920MW	690MW
送電亘長	200km 〔陸上 75km 海底 125km〕	200km 〔陸上 75km 海底 125km〕	135km 〔陸上 90km 海底 45km〕	130km 〔陸上 45km 海底 85km〕
スポンサー	当社、CIP、三菱UFJリース、TenneT			

【イギリス海底送電線事業】

案件概要	
事業内容	英国中西部沖合約30kmに位置するウォルニー・エクステンション洋上風力発電所（発電容量660MW）向けの送電資産の運営および保守。 2020年6月に英国当局より運営事業権を取得しており、取得後20年間にわたり送電を担う予定。
スポンサー	当社、三菱商事、HICL Infrastructure Plc

【シンガポール・人材育成・インキュベーション・投資事業】

案件概要	
会社名	Greenway Grid Global Pte. Ltd.
事業内容	①プロジェクト投資・運営 アジア地域を中心とした、送配電事業や次世代インフラ事業等の開発・運営 ②新規事業インキュベーション 顧客が持つ新規事業アイデアの事業化に向けた支援 ③グローバルリーダー人材育成 新規案件を事業化・運営できるリーダーを育成
スポンサー	当社、東京電力パワーグリッド、ICMG

【フィリピン国ニュークラークシティ 配電・小売事業】

案件概要	
事業内容	フィリピン国ニュークラークシティ※における配電・電力小売事業
事業期間	25年
スポンサー	当社、マニラ電力会社（MERALCO）、丸紅、関西電力、フィリピン基地転換開発公社

※フィリピン基地転換開発公社がクラーク米空軍基地の跡地（9,450ha）で開発を計画している大規模新都市。首都マニラが抱える交通渋滞や人口密集などの課題解決を目指し、政府施設移転、高速鉄道等の建設等により2065年までに120万人の居住人口と80万人の雇用を創出する国家プロジェクト。

海外事業の概要②

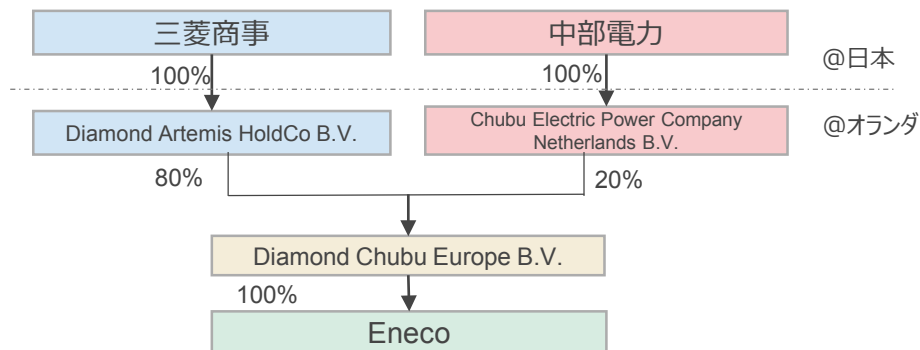
【オランダ総合エネルギー事業会社Eneco社の買収について】

案件概要		
目的	欧州の電気事業におけるプラットフォームと位置づけ、同地域において再エネ・小売・新サービス等の成長領域を拡大	
株式取得方法	三菱商事と共同で設立したDiamond Chubu Europe B.V.を通じて、Eneco株式の20%を取得	
出資額	41億ユーロ（約5千億円） ※120円/EUR換算（出資比率：三菱商事80%、中部電力20%）	
Enecoの概要	事業	電力・ガス・熱供給の総合エネルギー事業（オランダ、ベルギー、ドイツ等で事業展開）
	地域	オランダ、ベルギー、ドイツ等
	財務状況	2019年末時点：EBITDA 428百万ユーロ（約513億円） ※120円/EUR換算 純利益 80百万ユーロ（約96億円） ※120円/EUR換算

【Eneco保有の風力発電所】



【新会社Diamond Chubu Europe B.V.の概要】



当資料取扱上のご注意

当資料に記載の将来の計画や見通し等は、現在入手可能な情報に基づき、計画のもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。

これらの将来の計画や見通し等は、潜在的なリスクや不確実性が含まれており、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向等により、実際の結果とは異なる場合がございますので、ご承知おきいただきますようお願い申し上げます。

また、当資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。



中部電力